

福島第一原子力発電所 雨水受けタンク天板部からの転落死亡災害について

平成27年1月29日

東京電力株式会社



東京電力

1 . 概要

発生日時：平成27年1月19日 9時6分頃

発生場所：雨水受けタンクNo. 2（No. 4地下貯水槽エリア東側）

発生状況： 建設中の雨水受けタンクNo. 2の内面防水検査を行うため、当社社員1名、当該タンクの設置工事を請け負った元請会社社員の2名で、現場に向かった。現場到着後、元請社員1名と当社社員は、検査のためにタンク側面下部にあるマンホールよりタンク内部に入ったが、もう1名の元請社員（被災者）は、タンク天板部より自然光を入れるためにタンク 上部へ上がり、天板部にあるハッチの蓋を開けようとしたところ、ハッチの蓋（重さ：約43kg）とともにタンク内へ転落（高さ：約10m）した。

時系列

< 1/19 >

9：06頃 災害発生

9：43 救急医療室（ER）へ到着（意識あり、汚染なし）

10：08 ドクターヘリ要請

悪天候でヘリが飛行できないため救急車による搬送に変更

10：31 救急車にていわき市立総合磐城共立病院へ搬送開始

11：43 救急車がいわき市立総合磐城共立病院へ到着

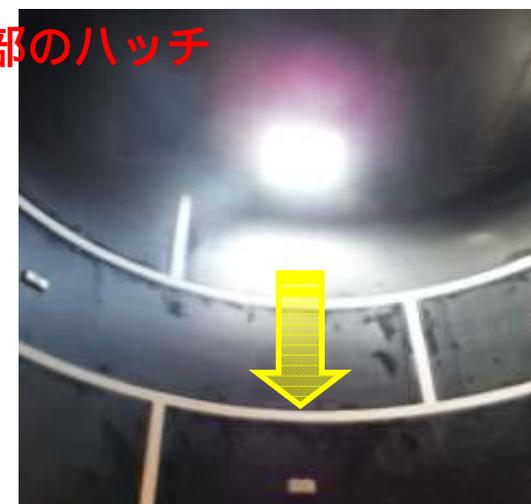
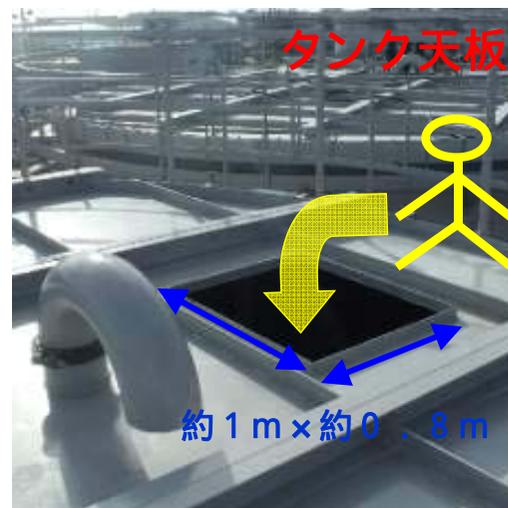
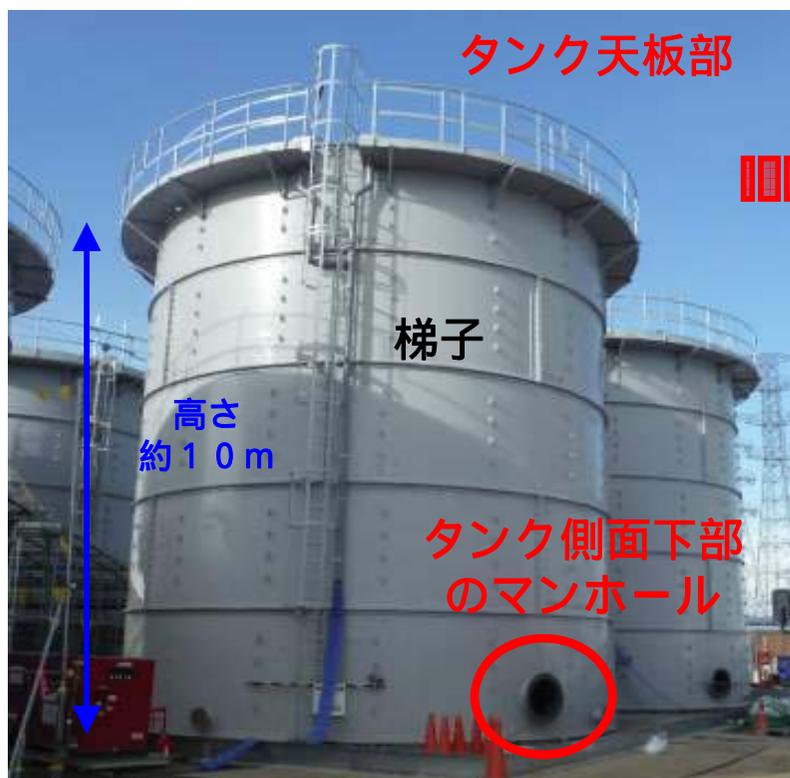
< 1/20 >

1：22 元請社員（被災者）の死亡を確認

被災者：50代男性

装 備：タイベック、全面マスク、ヘルメット、安全短靴、手袋（綿手・ゴム手2重）、安全帯装備

3 . 被災時の状況

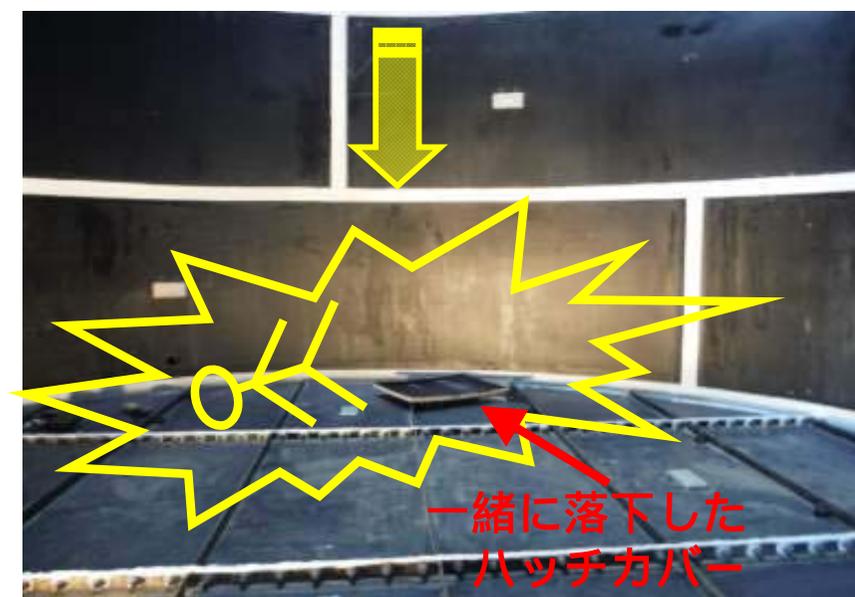


タンク天板部

タンク内部

状況： 雨水受けタンクNo. 2

- ・天板ハッチから自然光を採るため、ハッチの蓋を一人で開けようとした。
- ・作業を行う際に、装備していた安全帯を使用していなかった。
- ・ハッチの形状は角形で、蓋が落下する構造であった。
- ・被災者は、蓋を開けていた時に、蓋と一緒に転落した。



タンク内部底面

現在、発生原因に関しては調査・分析中。

4 . 福島第一、福島第二、柏崎刈羽各発電所の災害を踏まえた安全性向上策

■福島第一、福島第二、柏崎刈羽各発電所の安全向上策

- 1月19,20日に発生した福島第一（タンクからの落下死亡災害）、福島第二（点検治具挟まれ死亡災害）、柏崎刈羽（IPBシャフト室での落下災害）の重大災害を受け、3発電所で以下の対策を実施
 - ◆ 安全の確認が出来るまで全作業を停止し、各サイトで当社社員、協力企業作業員が現場の安全点検・確認・是正（暫定対策）活動を実施
 - ◆ 3発電所災害の原因分析・対策案の検討を実施して各事業所に水平展開を実施
 - ◆ 3つの災害事例に関して、当社社員、協力企業作業員全員参加のもと、事例検討会を実施
 - ◆ 3つの災害の深堀をするとともに、過去の重篤災害事例を比較・分析をして、「墜落」「はさまれ」「感電」「重量物落下」「埋没」「酸欠」などの共通要因を洗い出し、その対策を展開する